

各保健所の管内概況

* 四日市市は単独で保健所を設置

	桑名	(四日市)	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	計
管内市町数	7	1	2	1	4	7	2	2	3	29
管内市町のうち健康増進計画策定済み市町数	3	1	2	1	4	6	2	1	2	22
たばこの煙のないお店認定数	60	15	28	73	28	59	17	22	15	317
健康づくり応援の店登録数	26	12	22	19	26	59	19	21	20	224

各保健所における給食施設指導の状況（H25）

桑名		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	6	6	100.0%
	特定給食施設	113	17	15.0%
	一般給食施設	70	17	24.3%
	合計	189	40	21.2%

鈴鹿		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	8	8	100.0%
	特定給食施設	92	13	14.1%
	一般給食施設	97	26	26.8%
	合計	197	47	23.9%

津		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	8	8	100.0%
	特定給食施設	125	32	25.6%
	一般給食施設	113	28	24.8%
	合計	246	68	27.6%

松阪		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	6	6	100.0%
	特定給食施設	92	21	22.8%
	一般給食施設	82	15	18.3%
	合計	180	42	23.3%

伊勢		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	4	4	100.0%
	特定給食施設	113	18	15.9%
	一般給食施設	109	18	16.5%
	合計	226	40	17.7%

伊賀		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	3	3	100.0%
	特定給食施設	82	14	17.1%
	一般給食施設	65	13	20.0%
	合計	150	30	20.0%

尾鷲		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	1	1	100.0%
	特定給食施設	12	4	33.3%
	一般給食施設	34	9	26.5%
	合計	47	14	29.8%

熊野		施設数	指導数	指導率
	県指定施設	1	1	100.0%
	特定給食施設	14	2	14.3%
	一般給食施設	32	8	25.0%
	合計	47	11	23.4%

各保健所管内における「栄養・食生活」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	<p>【ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士職域ネットワーク委員会 2回 <p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜摂取推進セミナー 1回 ・栄養士職域ネットワーク研修会 3回 ・給食施設従事者研修会 1回 ・地域活動栄養士活動支援 22回 ・地区組織食育活動支援 19回 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等での協働啓発 8回 ・事務所ホームページ掲載 ・ポスター掲示 	<p>平成23年度実施した県民健康・栄養調査によると、野菜の平均摂取量はあらゆる年代において不足している。野菜不足による栄養のアンバランスは生活習慣病の一因になりうることから、望ましい食事の実践への支援が必要である。</p> <p>また、塩分摂取量もあらゆる年代において過剰であり生活習慣病との関与が懸念されることから、減塩の取組も必要である。</p>	<p>県民健康・栄養調査結果に基づき、野菜摂取不足の解消に向けた取組を重点的に推進するとともに、併せて減塩の啓発を行う。</p> <p>また、「食育月間」「健康増進月間」「食生活改善普及運動」に重点的に関係機関や関連団体等と連携した啓発を行う。</p>
鈴鹿	<p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食施設従事者研修会 1回 ・地域活動栄養士活動支援 11回 ・野菜摂取推進セミナー 3回 ・食育活動支援 2回 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等での協働啓発 18回 ・事務所ホームページへの掲載 ・「健康増進月間」「食生活改善普及運動」での健康づくり応援の店との協働啓発 19店舗 ・ポスター掲示 <p>【指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設等巡回指導 47施設 	<p>平成23年度実施した県民健康・栄養調査によると、野菜の平均摂取量はあらゆる年代において不足している。野菜不足による栄養のアンバランスは生活習慣病の一因になりうることから、望ましい食事の実践への支援を推進する必要がある。</p> <p>また、鈴鹿地域の年齢調整死亡率を見ると男女とも脳血管疾患と高血圧が県の値より高いため、減塩への取組が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民健康・栄養調査結果に基づき、野菜摂取不足の解消に向けた取組を重点的に推進する。また、減塩の啓発活動も併せて行う。 ・「食育月間」「健康増進月間」「食生活改善普及運動」期間に関係機関や関連団体等と連携しながら啓発活動を行う。 ・市の健康づくり計画の進捗管理の支援を行う。
津	<p>企業の健康管理部門と給食部門との連携により、社員食堂での「節塩」メニュー（減塩しょうゆさし、減塩味噌汁）の提供及び健康教育の実施等により、食堂の場を活用した働く世代の健康づくり啓発を行った。</p>	<p>多くの企業においては、健康管理部門と給食部門（社員食堂）の連携は不十分で、的確な情報共有により計画的に社員食堂等を活用し栄養管理や健康教育が行われているとは言い難い状況にある。</p>	<p>給食施設指導の場を活用して、企業の健康管理部門と給食部門との連携の推進や、社員食堂を活用した健康づくり啓発支援を行う。</p>
松阪	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜摂取量増加をめざしたセミナーの開催及び啓発の実施（年1回/年6回） ・人材育成支援及び連携市町栄養士連絡調整会議（年5回） ・食生活改善推進員研修会及び情報提供助言（年8回） ・地域活動栄養士会定例会時の情報提供助言（年7回） ・地域栄養管理ネットワーク研究会委員会及び研修会（各年1回） ・給食施設指導 ・巡回指導（年52施設） ・給食施設従事者研修会（年1回） ・健康づくり応援の店登録店26店への健康情報の提供（年2回） ・災害時栄養・食生活支援活動研修会（年1回） ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載（年5回/配信先63団体） ・保健所ホームページへの情報・記事掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代の食生活改善（野菜の摂取不足、欠食、食塩・脂肪の過剰摂取など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜摂取量増加をめざしたセミナーの開催及び啓発の継続。 ・社員食堂の把握。 ・健康づくり応援の店登録店への健康情報の提供及び新規登録店の増加。 ・保健所ホームページ、ヘルピー協働隊通信などからの情報発信。

各保健所管内における「栄養・食生活」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
伊勢	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜摂取量・朝食摂取・肥満予防 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜フル350セミナーの開催 3回 ・関係イベントでの展示など啓発 3回 ・市町栄養事業の情報共有 ○食の環境整備（給食施設の栄養管理・ヘルシーメニューの提供・栄養成分表の活用等） <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり応援の店の伊勢志摩版として「いせしま健康もてなしの店」の登録促進や資質向上のための研修会の開催や情報発信 59店舗 ・特定給食施設等の栄養管理に関する支援 ○人材育成・関連団体活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養関係ネットワークづくり ・食生活改善地区組織活動の組織運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康支援のための食の環境整備については、計画的に給食施設指導を巡回しているが、事業所においては、給食管理が喫食者の健康管理と結びついているところが少ない。 ・ポピュレーションアプローチでの取組のため、年度ごとの評価が困難である。 	<p>既存の業務を通じて、健康づくり計画を推進していけるように工夫する。</p>
伊賀	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康食育推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜摂取と栄養表示について伊賀食品衛生協会調理師部会会員を対象に野菜フル350推進セミナーを開催 4回 299名 ・野菜摂取の増加をめざして名張市体育・健康フェスタ及びCOOPみえ2013くらしの活動交流会において普及啓発を実施 2回 220名 2 給食施設指導 <ul style="list-style-type: none"> ・給食施設従事者を対象に研修会を開催 1回 35名 ・給食施設巡回指導 31施設 3 人材育成・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市栄養士に情報提供や事業支援、研修会の開催 ・食生活改善推進員の総会、リーダー研修会の支援、指導 ・地域活動栄養士会情報提供、研修会の支援 	<p>野菜摂取量については、年代により異なるが、平均的には不足の状態であり、栄養バランスや生活習慣病予防の観点から今後も継続して野菜摂取量の増加について取組を継続していく必要がある。</p> <p>特定給食施設においては、事故時や災害時等の危機管理について、行政や地域との連携を図りながら充実に努めていくことが必要である。</p>	<p>県民が健康的な食生活が実践できるよう、関係機関や団体等と情報共有や連携して、セミナーや啓発活動をおこない推進していきたい。</p>
尾鷲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野菜摂取量の増加を推進するため、セミナーを開催し、野菜摂取の重要性について理解を促すとともに、関係者と協働して野菜摂取促進の普及啓発を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①野菜フル350推進セミナー1回（100名） ②協働啓発等 3回（322名） 2. 給食施設の状況を把握し、各給食施設において、喫食者の立場に立った、より適切な給食が提供されることをめざした。 <ol style="list-style-type: none"> ①巡回施設指導数 11施設 ②集団施設指導 1回 100名 	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代において野菜の摂取量が少ない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の野菜摂取量の目標を350gとし、県民が栄養バランスのとれた健康的な食生活をおくれるよう、関係者等と協働して野菜摂取量の増加を推進するための啓発活動等を行う。

各保健所管内における「栄養・食生活」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
熊野	<p>1. 野菜フル350推進セミナーの開催 内容：講演「野菜を食べよう！～野菜の魅力～」 参加者：40名（給食関係者・食生活改善推進員等）</p> <p>2. 地域栄養管理ネットワーク研究会との協働 委員：各職域分野から12名 委員会：2回 部会：1回 内容：紀宝町健康まつりでの出展（ヘルシーレストラン、栄養相談、野菜350g展示、果物適量展示など）、情報交換</p> <p>3. 媒体作成 紀南健康長寿推進会議と連携し、低栄養予防のための高齢者向けリーフレットを作成した。</p> <p>4. 健康教育 内容：「食事の提供について（野菜を食べよう）」 対象：高等学校寄宿舎</p> <p>5. 啓発 健康づくり応援の店における啓発等</p>	<p>きなん地方計画最終評価（食育分野）では、朝食欠食等の課題が見られる子どもは、保護者に食事の欠食や偏食がある、就寝時間・起床時間が遅いなどの傾向がみられ、親世代に向けた働きかけを行うことが重要であること等がわかった。</p>	<p>地域栄養管理ネットワーク研究会などのネットワークを生かし、野菜摂取の増加を目指す野菜フル350事業を引き続き推進していく。また、市町や関係団体と情報共有を図り、各団体が実施する食育がより実践的な取り組みとなるよう引き続き支援する。</p>

各保健所管内における「運動・身体活動」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	【啓発】 ・リーフレット配布 ・ポスター掲示 ・事務所ホームページ掲載	—	ニーズに応じて情報提供や啓発を行う。
鈴鹿	【啓発】 ・リーフレット配布 ・ポスター掲示	—	・必要に応じて情報提供や啓発を行う。
津	—	—	—
松阪	・健康増進普及月間及びロコモティブシンドロームの普及啓発の実施（年1回） ・協働団体の情報共有の場の提供（年1回） ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載（年3回/配信先63団体）	・日常生活における歩数の減少。	・健康増進普及月間及びロコモティブシンドロームの普及啓発の継続。 ・ヘルピー協働隊通信などからの情報発信。
伊勢	○市町が中心となり推進している事業を間接的に支援した。 ・市町担当者連絡調整や情報交換など	・特に具体的な取り組みは実施していない。	・既存の業務を通じて、健康づくり計画を推進していけるように工夫する。
伊賀	健康増進普及月間に庁舎ロビーに啓発用のブースを設け、ポスターの掲示、パンフレットの配付をおこなった。 名張市体育・健康フェスタやCOOPみえ201くらしの活動交流会において、ポスター掲示やパンフレット等の配付をおこなった。		健康増進普及月間や健康フェスタ等の機会にポスター掲示やパンフレットの配付をおこない啓発をおこなっていきたい。
尾鷲	—	・各市町において、健康増進のためのウォーキング、健康体操等の普及啓発の取組が活発であるが、課題の把握は行っていない。	—
熊野	1. 講演会の開催 紀南健康長寿推進協議会において、一般住民を対象に講演会を実施した。 内容：講演「糖尿病と上手く付き合うための運動」 2. 啓発 各研修会、健康まつりにおいてリーフレット等を配布し啓発を行った。	きなん地方計画の最終評価（運動分野）では、日常的に歩行等の身体活動を「一日1時間以上」実施している人及び、「一日30分以上」の軽く汗をかくような運動を「週2回以上、1年以上」実施している人はH20年度からH23年度にかけてわずかに減少傾向にあった。身近なウォーキングコースの利用を促すこと、運動教室参加後の地域での自主活動グループ育成が必要であること等がわかった。	イベント等において、パンフレット等を配布し啓発活動を実施する。また、市町とともに各協議会等の場で協議連携しながら取り組んでいく。

各保健所管内における「こころの健康」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	<p>【ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺・うつ対策ネットワーク会議 1回 <p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルパートナー養成講座 6回 ・こころの研修会の開催 2回 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発 2回 ・リーフレット配布 ・のぼり、ポスター掲示 ・事務所ホームページ掲載 	<p>自殺者数は平成22年に減少したものの再び上昇傾向に転じている。</p> <p>また若年層及び中高年層における自殺の死因順位が高いことから、引き続きこころの健康、自殺対策の取組が必要である。</p>	<p>「自殺対策強化月間」「自殺予防週間」に重点的に啓発や街頭キャンペーンを行う。</p> <p>また、関係機関(者)と連携し情報共有をしながら、引き続きメンタルパートナー養成を行う。</p>
鈴鹿	<p>【相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師によるこころの健康相談 6回 <p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルパートナー養成講座 12回 ・研修会の開催 5回 ・団体等への活動支援 17回 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発活動 20回 	<p>各市・関係機関・市民団体等からの情報収集のうえ、ニーズを把握する必要がある。</p> <p>こころの健康問題をより地域に浸透させるためには、市や市民団体等との連携をより深める必要がある。</p>	<p>・各市・関係機関・市民団体等と連携し、市民団体等の育成を支援する。</p>
津	<p>地域・職域連携推進協議会に併せ、「津こころの健康づくり」ネットワークとして「三重県自殺対策行動計画」や「自殺対策の状況」について説明、理解を促した。</p> <p>また、協働研修会を開催し、『「飲酒」と「うつ」～アルコール こころと体の健康問題』を実施した。</p> <p>開催日 平成26年3月28日(金)</p> <p>参加者 37名</p>	<p>産業保健におけるメンタルヘルスは大きな比重を占めていると思われるが、実際には対応できない事業所も多く見受けられる。(特に中小企業)具体的に活用できる方策を検討する必要がある</p>	<p>県計画等に従い、正しい知識や対応について啓発・普及を継続する。</p>
松阪	<ul style="list-style-type: none"> ・松阪地域自殺・うつ対策ネットワークの開催(年1回) [こころ元気会の1回] ・自殺予防研修会の開催(年1回) ・松阪地区地域・職域連携推進懇話会におけるメンタルヘルス対策研修会の開催(年1回) ・自殺予防週間、自殺対策強化月間、各団体イベント等における普及啓発(年15回) ・保健所ホームページへの情報・記事掲載 ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載(年5回/配信先63団体) ・支援者育成(メンタルパートナー指導者研修6名) ・メンタルパートナーの養成(年7回 養成数370人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・松阪地域の自殺者数及び標準化死亡比は、県平均を上回っており、高齢者だけでなく、次代を担う若年層の自殺が減少しないことが課題。 ・教育機関、専門医療機関との連携も必要。(予防・早期ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防のための人材育成、地域自治体、企業、団体との連携した活動。幅広い年代への普及啓発活動の継続。 ・早期自殺予防の視点で、日常生活におけるのこころとからだの健康管理の推進。 ・自殺予防のための人材育成。 ・地域自治体、企業、団体との連携した活動。幅広い年代への普及啓発の継続。 ・早期自殺予防の視点から、教育機関、専門医療機関との連携が必要。(市町の協力)

各保健所管内における「こころの健康」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
伊勢	<p>1. 対面相談支援事業 ○精神科医師によるこころの健康相談 9回開催 23件</p> <p>2. 人材育成事業 ○メンタルパートナー養成事業 4回開催 309人養成</p> <p>3. 普及啓発事業 ○自殺予防講演会…2月に1回開催 34名 ○自殺予防週間啓発…啓発物品の配布等を2回実施 ○自殺対策強化月間啓発…啓発物品の配布等を2回実施 ○ホームページによる自殺予防啓発 自殺予防講演会、自殺予防週間、自殺対策強化月間について掲載し情報提供を行った</p> <p>4. 関係機関との連携等 ○自殺・うつ対策ネットワーク会議（地域・職域連携推進懇話会）の開催…自殺・うつ対策を含めたこころの健康づくりについて、2月に1回開催 ○その他 自殺予防講演会、自殺対策強化月間の街頭啓発において、伊勢市の協力を得て実施</p>	<p>○平成25年度は、伊勢保健所管内地域・職域連携推進懇話会を活用し、メンタルヘルス・自殺対策を含めた関係機関との協議を行ったところ、うつや自殺対策は、地域の大きな健康課題であるとの共通認識を得ることができたので、今後は、具体的な活動について検討する必要がある。</p> <p>○メンタルパートナーの養成について、今後は、関係機関と連携して支援する役割を担うことのできる人材の養成を行うことが必要である。</p> <p>○相談事業を実施している関係機関のスタッフのスキルアップを図るための研修を実施する必要がある。</p> <p>○当管内は、自殺死亡率が高いため、住民の理解を深めるための普及啓発を図る必要がある。</p>	<p>○伊勢保健所管内地域・職域連携推進懇話会の開催…こころの健康づくりに関する具体的施策の検討を行う</p> <p>○メンタルパートナーステップアップ研修を開催する…メンタルパートナーに対して、関係機関と連携しながら支援することのできる人材を養成する</p> <p>○引き続き自殺予防講演会や、街頭啓発を行い、地域住民に対して自殺予防に関する正しい知識の普及啓発を図る</p>
伊賀	<p>関係機関との連絡調整（所内課長会議・管内業務担当者等）で事業を共有し、自殺予防週間及び自殺対策強化月間に協働で、自殺予防の啓発ティッシュ配布し街頭啓発を実施。</p> <p>健康まつり等で保健所のブースを設置、啓発を実施（名張市体育・健康フェスタ2013：コープみえ商品・くらしの活動交流会）</p> <p>一般住民へのこころの健康づくり講演会として、H25.11.30（土）「笑い上手は、生き方上手」講師：鈴鹿医療科学大学 教授 橋元 慶男氏 参加者：87名</p> <p>メンタルパートナーを877名養成した。</p> <p>こころの健康相談：毎月第4水・12回、延べ23名</p>	<p>こころの健康づくり、自殺予防について啓発を実施しており、参加者数の把握はできても、その効果の検証ができていない。</p> <p>また、研修の参加者の属性が同じような者になっており、本当に啓発が必要な方に届いていない。</p> <p>メンタルパートナーは養成しているが、メンタルパートナーの活動については把握できていない。</p>	<p>管内の市関係者との連絡会議、いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会の中で、自殺対策に取り組む。</p> <p>伊賀管内でメンタルパートナーは、4年間に2,000人を養成することになっており、平成25年度末で2,635人を養成しており目標は達成した。</p> <p>26年度も引き続きメンタルパートナーの養成及び啓発の取組を行う。</p>
尾鷲	<p>1. 尾鷲地域自殺対策ネットワーク会議の開催 2回/年</p> <p>2. 人材育成事業 ①メンタルパートナー養成研修 管内全体：回数(17回) 受講者数(230人) ②人材育成研修会 1回(34人) 相談面接技術研修 ③支援者スキルアップ研修会 1回(30人) 認知行動療法研修</p> <p>3. 普及啓発事業 ①啓発用チラシの作成 ②自殺予防週間キャンペーン活動 5か所 ③自殺対策強化月間キャンペーン活動 3か所</p> <p>4. その他 ①事例検討会の開催 1回(支援関係者4人) ②「自殺予防相談対応の手引き」の配付 対象：一般社団法人紀北薬剤師会員 25人</p>	<p>・関係機関に自殺対策の理解は浸透しつつあるが、日常の活動が自殺予防につながることにについての認識が弱いため、取組の実効性を訴えかけるとともに、関係機関の連携強化を図る必要がある。</p>	<p>・ネットワーク組織のさらなる連携強化を図り、地域自殺対策の取り組みを充実させていく。</p> <p>・平成23年度から重点的に取り組んでいる人材育成については、引き続き取り組み、ネットワーク委員の母体組織の活動の中で実践されていくことをめざす。</p>

各保健所管内における「こころの健康」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
熊野	<p>(1)関係機関との会議 ①熊野地域自殺対策連絡会の開催（くまの地域・職域連携推進懇話会との合同開催） 日時：H25.10.1 場所：県熊野庁舎1階101会議室 内容： ・講演「勤労者の安全と健康に関する法令の理解」 講師 熊野労働基準監督署署長 渡邊文孝氏 ・管内における自殺の現状等について意見交換 参加者：17名 ②熊野地域自殺対策連絡会ワキнгの開催(3回) H25.8.13 6名 H25.11.12 7名 H26.3.24 7名 (2)普及啓発 ①自殺予防週間（H25.9.10～9.17） 熊野庁舎においてポスター掲示・啓発物品配布 ②自殺対策強化月間（H26.3.1～3.31） ・各市町の図書館及び保健所玄関においてパンフレットの設置 ・御浜町のイベントを利用して啓発物品の配布 (3)人材育成 ①メンタルパートナー養成研修 128名 ②メンタルパートナー指導者養成研修 25名 ③自殺対策支援者研修会 30名 「自殺に傾く心理プロセスと自殺予防」 講師：上野病院院長 平尾文雄氏 (4)健康教育 市町・教育機関と連携し思春期教育を行う中で、命の大切さや自尊感情の向上につながる内容を盛り込んで実施した。 対象：管内中学校・高校の生徒・教師等 回数：7回 参加者数：779名</p>	<p>・平成19年から23年の自殺者の状況を見ると、30代から60代の自殺者が約半数を占めている。また、10代・20代の自殺者も数名おり、遺族や周囲の人への影響が懸念される。 ・高齢化が進み、独居高齢者が増加している。 ・精神科医療への偏見があり受診に対する抵抗感が強い可能性がある。 ・支援者が、自死遺族や自殺未遂者へのメンタル面への支援に不安がある。 ・啓発活動やメンタルパートナー養成については継続していく必要がある。</p>	<p>熊野地域自殺対策連絡会にて、市町等関係者を中心に地域の特徴・課題を踏まえたうえで、日常生活のあらゆる場面をとらえ、自殺予防の普及啓発を実施し住民の理解を深めながら、熊野地域における有効な自殺対策を検討、事業の推進を実施していく。</p>

各保健所管内における「たばこ」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	<p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発 1回 ・リーフレット配布 ・ポスター掲示 ・事務所ホームページ掲載 	<p>受動喫煙防止とともに喫煙者の減少に向けた取組が必要である。</p>	<p>「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」に重点的に啓発や街頭キャンペーンを行う。</p>
鈴鹿	<p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」での協働啓発・テッシュ配布 9箇所 ・受動喫煙予防キャンペーン（スーパー） ・事務所ホームページへの掲載 ・リーフレット配布 ・ポスター掲示 	<p>受動喫煙防止とともに喫煙者の減少に向けた取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」に重点的に協働啓発や街頭キャンペーンを行う。 ・事務所ホームページで啓発を行う。
津	<p>世界禁煙デー及び禁煙週間に係る、ポスター掲示及び啓発用ポケットティッシュの配布を行い啓発を行った。また津庁舎5階の喫煙スペースの撤去を行い、フロアの禁煙を行った。</p>	<p>公共施設や多数の人が利用する施設において、受動喫煙防止対策を推進する必要がある。</p>	<p>引き続き喫煙率の低下を促進するため、たばこの健康被害に関する知識の普及や、受動喫煙防止に関する啓発を行う。</p>
松阪	<ul style="list-style-type: none"> ・各協働イベントにおいて、受動喫煙防止の普及啓発（年5回） ・未成年者喫煙防止啓発キャンペーン参加（年1回） ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載（年3回/配信先63団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙率がさらに低下するような取組が必要。 ・受動喫煙防止のための環境整備が十分でない場合があるため、分煙の徹底を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」の普及啓発の継続。 ・ホームページでの情報発信。 ・各種イベントでの受動喫煙防止普及啓発の実施。
伊勢	<ul style="list-style-type: none"> ・世界禁煙デー及び禁煙週間の啓発として、県伊勢庁舎玄関ロビーにて、来庁舎や庁舎内職員へ喫煙の健康影響等について、展示・啓発物の配布等により啓発を行った。（看護学生による働く世代への禁煙啓発） ・喫煙・禁煙に関する情報提供（伊勢保健所オリジナルHPにて常設） ・働く世代への啓発として、事業所従事者へ開発物の配布を行った（1か所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの健康への悪影響については、科学的に明らかとなっているにも関わらず、県庁舎のような公共施設でさえも敷地内全面禁煙となっておらず環境整備が一定以上進んでいない状況で啓発中心の取組におわっている。 ・たばこの煙の無いお店については、利用者だけでなく、従事者（働く世代）の受動喫煙を防止している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの煙のないお店の増加について、受託者である食品衛生協会と連携し啓発していく。 ・禁煙支援や受動喫煙の防止についてさらに啓発を進める。
伊賀	<p>禁煙週間中庁舎ロビーにおいて、ポスターの掲示、パンフレットや啓発物品の配布をおこない啓発を実施した。 名張市体育・健康フェスタやCOOPみえ2013くらしの活動交流会において、ポスター掲示やパンフレット等の配付をおこなった。</p>	<p>啓発用パネル等もデータが古くなり活用できなくなっているため更新されることが望ましい。</p>	<p>禁煙週間中に庁舎ロビーにおいておポスターの掲示、パンフレットや啓発物品の配布をおこない啓発を実施する。 地域・職域連携推進懇話会や情報交換会等の機会を利用して情報共有をおこない、団体や企業等からの要望があれば、支援や連携して実施できるような事業があれば協働して実施したい。</p>

各保健所管内における「たばこ」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
尾鷲	<p>1. 世界禁煙デー（5月31日）及び禁煙週間（5月31日～6月6日）</p> <p>①街頭啓発 主婦の店セントラルマーケット店頭にて来店客に禁煙啓発ポケットティッシュ（約350個）を配布。禁煙啓発ポスターの店内への掲示。</p> <p>②三重県立尾鷲高校での啓発 「保健だより」等によるたばこの健康への影響に関する知識の提供。生徒及び職員への禁煙啓発ポケットティッシュ（約900個）の配布。 禁煙啓発ポスターの掲示。 ※養護教諭に依頼し、学校側にて対応</p> <p>③その他の啓発 尾鷲庁舎内掲示板に禁煙啓発用ポスターを掲示し、職員及び来庁者に啓発。職員への禁煙啓発用ポケットティッシュ（約200個）の配布。庁内放送による職員への禁煙及び受動喫煙防止の普及啓発への依頼。</p> <p>2. その他の啓発 ①2013年商品・くらしの活動交流会（コープみえ） 啓発用パンフレットの配布、啓発用パネルの展示。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙の機会が多い現状にある。 ・喫煙コーナーが入り口付近に設置され、店内に副流煙が流れ込み、店内の人々に受動喫煙の危険性がある店舗がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の取り組みに準じ、特に「未成年者の喫煙防止」と「受動喫煙の防止」に重点を置いた啓発活動を実施する。 ・たばこの煙の無いお店等、受動喫煙の危険のない店舗を増やすため、店舗に協力を依頼する。
熊野	<p>健康教育 目的：喫煙が及ぼす健康への影響について管内学生を対象に実施</p> <p>1) 対象：管内中学生 7月2日・16日・1月10日 計152名</p> <p>2) 対象：管内高校生 6月20日・10月28日 計200名</p>	<p>喫煙率の推移をみると、ほぼ全国的に低下しつつある中で、若い女性の喫煙率が近年上昇している。喫煙開始年齢が低いほど短期間でニコチン依存状態となりやすく、特に若年者への喫煙対策が必要である。</p>	<p>健康教育の充実として、学校、地域における禁煙・防煙教育の推進や、喫煙が及ぼす健康教育についての十分な知識普及を実施していく。</p>

各保健所管内における「アルコール」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	【啓発】 ・ポスター掲示	イベント等で正しい知識の普及・啓発を行う。	イベント等で正しい知識の普及・啓発を行う。
鈴鹿	【啓発】 ・亀山市健康づくりイベント及び学校文化祭での啓発	こころの健康（メンタルヘルス）対策を併せた取り組みが必要。 若い世代からアルコール問題に正しい知識を普及させていくことが必要。	・学校等と連携しながら、正しい知識の普及を行う。
津	—	—	—
松阪	・各団体イベント等における普及啓発（年15回） ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載（年2回/配信先63団体） ・相談窓口の設置（随時：電話、専門医予約相談等） ・自殺予防研修会における飲酒リスクの普及（年1回） ・支援者の人材育成～専門研修への参加（年1回）	・自殺予防のリスクとなりうる飲酒習慣への理解不足。	・相談・支援の継続。 ・各種イベント、研修会における普及啓発の実施。 ・ヘルピー協働隊通信における情報発信。 ・相談者の人材育成の継続。
伊勢	啓発事業 「地域におけるアルコール問題のある人への支援について」講義と体験発表を行った。 ①講義：三重県飲酒運転0（ゼロ）をめざす条例について 講師：三重県健康福祉部障がい福祉課 主査 ②当事者、家族の立場からの体験発表 講師：公益社団法人三重断酒新生会	地域でアルコール依存症で困っている家族、治療中断している方の問題があるが、底つき体験をした状態で保健所が支援に入っている。 底つき体験をするまでに、内科医療とアルコール専門医療が連携できるように啓発が必要。	精神保健領域と飲酒運転違反者やその家族への支援を交通安全の部局と協力しながら啓発活動を進める。 こころの健康に携わるスタッフ（市町関係者も含む）へのスキルアップ研修にアルコール問題も取り入れていく。
伊賀	名張市体育・健康フェスタ、COOPみえ2013くらしの活動交流会においてパンフレット等を配布して啓発を実施した。	地域・職域連携推進懇話会において、アルコールに関する専門的情報の提供を得て、情報共有をおこなうことができた。今後関係団体等と連携を図り活動につなげてゆきたい。	健康フェスタ等においてパンフレットを配付して啓発を実施する。 各組織はや団体等と連携して実施できる事業等があれば協働して実施する。
尾鷲	アルコールパッチテストを実施及びアルコールの飲み方の注意 ①2013年商品・くらしの活動交流会（コープみえ）	・男性において飲酒が習慣化している人が多い状況が続いている。	・適正飲酒者の増加のために啓発活動を実施する。 ・地域での支援体制の強化のために関係者にアルコール対策や対応方向についてのスキルアップ研修を実施していく。
熊野	学校長からの要望が今年度はなく、実施なし	紀南地域では、高齢者の飲酒問題、依存症の早期発見、治療等に関する支援は、個別対応が中心である。アルコールに関する正しい知識の普及啓発を目的とした地域活動の継続が必要である。	あらゆる機会を捉え、特に若年層を中心に、アルコールに関する正しい知識の普及啓発を目的として健康教育や普及啓発を図る。

各保健所管内における「歯科」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	【啓発】 ・のぼり、ポスター掲示 ・事務所ホームページ掲載	—	ニーズに応じて情報提供や啓発を行う。
鈴鹿	【啓発】 ・「8020運動推進月間」にのぼり・グッズ配布 ・事務所ホームページへの掲載	—	必要に応じて情報提供や啓発を行う。
津	—	—	—
松阪	・地区歯科医師会主催の「地域8020運動推進協議会」に、市町とともに参加(年1回) ・歯科医師会等との協働による「歯の健康まつり」における啓発・健康情報の提供(年1回) ・各協働イベント等での普及啓発 (年4回) ・ヘルピー協働隊通信への記事掲載	・小児のう蝕状況は改善されつつあるが、う歯のある12歳児の割合は、全国平均と比較すると悪い市町がある。 ・市町における歯周疾患検診受診が進んでいない。	・「地域8020運動推進協議会」に参加し、地区歯科医師会と連携を取り、市町に具体的な取組を促す。
伊勢	○母子保健担当者会議で情報交換の実施 ・三才児健康診断や一歳半健診で虫歯予防の取組について ・各市町における歯科保健教室の情報交換実施 ○統括保健師会議で情報交換の実施 ・歯周疾患検診について ・歯の健康教室について	○乳幼児の虫歯予防については、母親の関心も高くなってきているが、一部問題を抱えている家族にとっては、健診や教室に参加することも少なく、歯科保健の現状把握まではできていない。 ○大人の歯科保健の取組には、積極的に取り組んでいるところやそうでないところがあり、市町に格差がある。	○乳幼児における歯科保健活動は、どの市町においても活発な活動が行われているが、今後は、未受診児や要支援児等への歯科保健の取り組みの充実を図る必要がある。 ○保健師自身、成人の歯科保健の重要性を再認識し、未受診者の把握や支援等、歯科保健活動に、積極的に取り組んでいく必要がある。
伊賀	名張市体育・健康フェスタ、COOPみえ2013くらしの活動交流会においてパンフレット等を配布して啓発を実施した。	歯について所内においては専門的に指導出来るマンパワーが無いため、必要があれば県歯科医師や管内の歯科衛生士会に協力を依頼している。	各組織や団体等と連携して実施できる事業等があれば協働して実施する。 健康フェスタ等においてパンフレット等を配布して啓発を実施する。
尾鷲	1. 歯科啓発用物品の配布 ①2013年商品・くらしの活動交流会(コープみえ) ②尾鷲市PTA大会 2. 啓発用ポスターの掲示 ①尾鷲庁舎	・各市町はフッ化物洗口をはじめ、母子及び学校等において歯科保健対策に取り組んでいる。しかし、乳幼児～成人のう歯有病率は高く、改善のための取り組みが重要である。	・普及啓発の機会をとらえ、8020運動、歯周病予防等の普及啓発のための情報提供を行う。
熊野	1. 地域8020運動推進協議会等への参加 地域8020運動推進協議会等に参加し、関係者と情報共有を図るとともに、乳幼児から高齢者が健やかで充実した人生を送ることができるための支援などについて協議した。 2. 啓発 各研修会、健康まつりにおいて、リーフレット、ポスター等を配布、掲示し啓発を行った。	きなん地方計画最終評価(歯科分野)では、幼児のう歯は減少しているが、12歳児の一人当たり平均う歯数は県平均より高い状態にある。また「噛まない子、噛めない子」が増加している様子もあり、乳幼児における離乳食の段階で発達を考えた支援が必要であることがわかった。	市町においても問題意識を持っており、保育園などでのフッ化物洗口を実施するなど取り組みが充実してきている。引き続き、地域8020運動推進協議会等において、情報共有を図り必要な対策を検討する。

各保健所管内における「四疾病」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	<p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> リーフレットの配布 ポスターの掲示 事務所ホームページ掲載 	-	他領域（栄養・食生活、こころの健康、たばこ、歯・口腔など）の取組を通じて実施する。
鈴鹿	<p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> がん相談支援センター患者会への参加 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット、リーフレットの配布 ポスターの掲示 糖尿病予防キャンペーンへの参加 	-	必要に応じて情報提供や啓発を行う。
津	市民向けイベントにてがんに関するパンフレットを配布した。	広く市民に啓発する機会が少ない。	今年度も機会をとらえて市民に啓発を進めたい。
松阪	<ul style="list-style-type: none"> 各協働イベント等での、がん予防・糖尿病予防普及啓発（年5回） 「松阪地区地域・職域連携推進懇話会」を開催。特定健康診査やがん検診など健康づくりについての情報共有や情報交換を実施（年1回） ヘルピー協働隊通信への記事掲載（年6回/配信先63団体） 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の糖尿病の年齢調整死亡率が県平均よりやや高い。 働く世代への生活習慣病予防対策のアプローチは、まだ不十分な状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでの普及啓発の継続。 特に働く世代をターゲットに特定健康診査の受診や生活習慣病予防対策が効果的、効率的に実施できるよう地域・職域連携懇話会を活用し支援する。
伊勢	<ul style="list-style-type: none"> 統括保健師会議で情報交換を実施 各種がん検診について 糖尿病教室について 特定保健指導について 自主勉強会において特定健診・保健指導結果について検討を実施 市町訪問で、生活習慣病対策についての話し合い 健診受診率の向上を目指す。 栄養士等と協力して事業を実施 重症化予防に向けての事業開始準備 アンケート調査の実施等 	<ul style="list-style-type: none"> 事業が数年経過した今、健診や保健指導の受診率は、比較的高い状態を保っているが、評価において大きな改善は見られず、対象者の反応もマンネリ化の傾向にある。 今以上の高い受診率を目標にして、各市町は色々工夫し事業の改善に取り組んでいるが、それも限界にきていて、閉塞感が感じられる。 研修会の参加や面接技術の向上等、積極的な専門技術の向上が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業のまとめ評価を行い、問題点や課題を分析し取り組んでいく。 情報交換を積極的に行うと共に、先進地等の情報収集を行い事業の改善を図る。 研修会の積極的な参加や勉強会の実施により、専門技術の向上を図る。 地域住民との協力を図り、普及啓発に努める。
伊賀	名張市体育・健康フェスタ、COOPみえ2013くらしの活動交流会においてパンフレット等を配布して啓発を実施した。	職域と連携して、働く世代へのアプローチを強化する必要がある。	地域・職域連携推進懇話会において情報共有をおこなない、各市や団体等からの要望により支援をおこなうとともに、連携して実施できる事業等があれば協働して実施する。 健康フェスタ等においてパンフレット等配布して啓発を実施する。
尾鷲	<p>啓発用リーフレットの配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2013年商品・くらし活動交流会（コープみえ） ②尾鷲市PTA大会 	<ul style="list-style-type: none"> 男性は脳血管疾患、肝疾患の年齢調整死亡率が県平均より高い。 40歳～64歳における生活習慣病死亡率305.1で、県平均値217.9よりも高い。（人口10万対 平成19年～23年累計 管内） 標準化死亡率比では、県100とした悪性新生物の大腸がんは男性115、女性120で高い（平成19～23年累計 管内） 	「栄養・食生活」他、他分野とともに、普及・啓発の機会をとらえ、情報提供を行う。

各保健所管内における「四疾病」に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
熊野	<p>1. 糖尿病 紀南健康長寿推進協議会において、糖尿病対策体制づくりについての協議、糖尿病「教育入院」クリティカルパスや一般住民を対象に糖尿病予防講演会（2回）を実施した。</p> <p>2. がん 「生命の駅伝」の実施にあたり、啓発活動及び募金管理などを行った。 各研修会、健康まつりにおいて、パンフレット、リーフレットを配布し啓発を行った。</p>	<p>きなん地方計画最終評価（生活習慣分野）では、特定健康診査、がん検診等の受診率が低く、初期段階での発見と治療に繋がっていない現状がみられた。</p>	<p>1. 糖尿病 紀南健康長寿推進協議会のメンバーとして、糖尿病対策を中心とした生活習慣病対策における体制づくりについて、引き続き協議していく。</p> <p>2. がん 生活習慣病対策と定期的ながん検診の受診について、各種イベント等で啓発活動に取り組んでいく。</p>

各保健所管内における地域との連携に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
桑名	<p>【ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・職域連携推進協議会 1回 <p>【人材育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理従事者研修会 1回 ・市町栄養改善事業検討会 4回 <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり応援の店との協働啓発 27店 ・生活習慣病予防協働啓発 1回 <p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり応援の店 27店舗 ・たばこの煙の無いお店 58店舗 	<p>ソーシャルキャピタルの把握と連携、協創が必要である。</p>	<p>他領域（栄養・食生活、こころの健康、たばこ、歯・口腔など）の取組を通じてソーシャルキャピタルを把握し、ニーズに応じて連携、協創を行う。</p>
鈴鹿	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿勤労者連絡協議会主催のスタンプラリー会場における健康づくり（栄養・食生活、こころ、歯科、たばこ等）の啓発。 ・鈴鹿市救急・健康フェアにおける健康づくり（アルコール、こころ等）の啓発 ・神戸高校文化祭における健康づくり（栄養・食生活、こころ、アルコール等）の啓発 	-	<p>様々な機会を捉え、幅広い対象への効果的な情報提供や啓発を行う。</p>
津	<p>津市健康づくり懇話会にアドバイザーとして所長が参画。 地域の活動団体へ「基本計画」を説明。協創を促した。</p>	<p>地域機関として、県計画の推進や実践にどう関わり、何を働きかけるか、方向性が不明。</p>	<p>各事業施策の業務を確実に行う。</p>
松阪	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する最新情報などを「ヘルピー協働隊通信」（メールマガジン）にて情報提供（年15回） ・地域・職域等での健康づくり啓発活動「ヘルピーおでかけ隊」の実施（年6回） ・情報交換を目的とした「ヘルピー協働隊の集い」開催（年1回） ・ホームページによる情報提供（随時） ・ヘルピー協働隊メンバーとの情報交換・相談（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルピー協働隊メンバー連携のため、継続した支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルピー協働隊メンバーへの情報発信、情報交換、情報共有の場の提供の継続。 ・郡部で開催される食生活改善推進員養成講座への支援。
伊勢	<ul style="list-style-type: none"> ○度会町と協力して、「生活習慣病予防について」の講演会を実施した。 ○指定障害福祉サービス事業所と連携し、参加者及び職員等に対して「ふせごう生活習慣病」について、衛生教育を実施した。 	<p>○定期的に連携した取り組みは困難な現状である。</p>	<p>○必要時、連携しながら取り組んでいく。 ○指定障害福祉サービス事業所については、事業所は変わるが今後も衛生教育を実施し、普及啓発に努めていきたい。</p>
伊賀	<p>関係機関との連絡調整（所内課長会議・管内業務担当者等）で事業を共有し、自殺予防については協働で街頭啓発を行った。 いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会や情報交換会が活用されて、パンフレット等の資料提供や研修会等の情報提供を通じて、職域事業の充実につながった。</p>	<p>地域住民と連携する事業は実施できていない。 メンタルパートナーは養成しているが、メンタルパートナーの活動については把握できていない。</p>	<p>管内の市関係者との連絡会議、いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会の中で、健康づくり対策に取り組む。</p>
尾鷲	<p>1. 地域住民と連携した健康づくりの啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2013年商品・くらし活動交流会（コープみえ） ②尾鷲市PTA大会 ③自殺予防週間キャンペーン活動 5ヶ所 ④自殺対策強化月間キャンペーン活動 3ヶ所 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発を行う場が少ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内市町、地域住民の活動と協働した啓発活動を行うとともに新たな啓発の場を検討する。

各保健所管内における地域との連携に係る取組と課題

	平成25年度における主な取組	現状における課題	課題を踏まえた今年度の取組予定
熊野	-	-	-